学校番号	２１３

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「増補新版　現代の国語」（数研出版）						
副教材等	プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 現代文単語げんたん（いいずな書店） 大学入試　国語頻出問題１２００（いいずな書店） 基礎が身につく現代文レベル①〔改訂版〕（Z 会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、自ら考え、話し合いの中で、物事を表現する力を養います。
・漢字/現代文単語/文学史などの知識問題の小テストはこつこつ取り組みましょう。
・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けるために、日々の小テストや、定期考査に計画的に取り組みましょう。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。
・授業中のノートやプリントについては板書を書き写すだけにとどまらず、先生の発言や、自分なりに考えたこと、気づいたことを積極的にメモを取るようにしましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
目的や場にふさわしい言葉を選び、適切に思いや考えを表現することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
文章内容や構成などを理解し、自分の考えを持つことができる。
【学びに向かう力、人間性等】
言語感覚を磨き、論理的な思考力を活用しながら豊かな感受性を育むことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

点観	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「書くこと」,「読むこと」の各領域において，生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者とかかわったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	社会と文化 ［教材］ 『水の東西』(山崎正和)	a:本文の漢字や語句を理解している b[読]:文章の内容や構成、論理の展開を叙述を基に的確に捉えることができる。 c:文化の違いを理解し、他作品でも、その文化の社会構成を見抜こうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ワークシート ノート等
	ことばの働き ［教材］ 『ものとことば』(杉木孝夫)	a:認識や考えの根底には言葉があるということを理解している。 b[読]:一般論から筆者の考えを把握し、そこに至るまでの経緯を理解している。 c:同じ意味合いを持つ言葉と比較し、その違いを自分なりに把握し、理解しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ワークシート ノート等
二学期	「わたし」の多様性 ［教材］ 『一人の中にある無限』(伊藤亜紗)	a:社会や他者と自分の関係を考えることができる。 b[話聞]:他者の意見と比較するなかで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 c:作品の内容や解釈の違いを理解し、相互の理解を深めようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ワークシート ノート等
	解釈を述べる ［教材］ 『事実なのか考えなのか』(野矢茂樹)	a:主張の違いを、語句や接続詞から読み取ることができる。 b[書]:異なる主張を読み比べたうえで、自分なりの考えをまとめて、書くことができる。 c:自分の書いた文章を積極的に発表し意見交換しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ワークシート ノート等
三学期	意見を述べる ［教材］ 『無痛化する社会のゆくえ』(森岡正博)	a:情報を整理しながら主張と根拠を把握することができる。 b[書]:身近な事例から、疑問をもち、それに対して、自分なりの考えをまとめることができる。 c:筆者の主張を踏まえて自身の考えを持つことができる。	定期考査 小テスト	定期考査	ワークシート ノート等

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準ｂ[　]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　２０　）時間

・書くこと　…　（　３０　）時間

・読むこと　…　（　２０　）時間